

子育て

医療機関の充実と医療費の無料化に関心

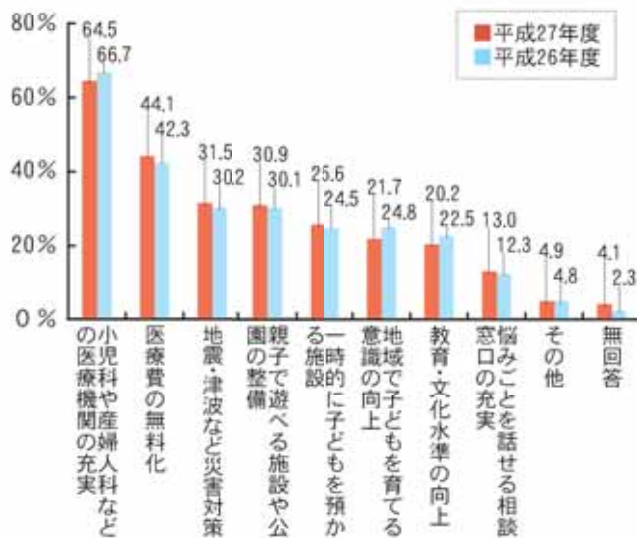
「子どもを産み育てやすい環境だと思う」「大いに思う」「ある程度思う」の合計が約3割となっています。子どもを産み育てやすい環境にするため、市が取り組むべきこととして、「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」がもっとも高く、「医療費の無料化」「地震・津波など災害対策」と続いています。

平成27年10月からこども医療費の個人負担額が無料となります。

問 市は子どもを産み育てやすい環境か？



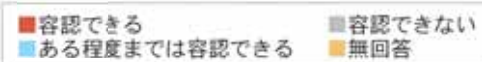
問 子どもを産み育てやすい環境にするため、市が取り組むべきことは何か？



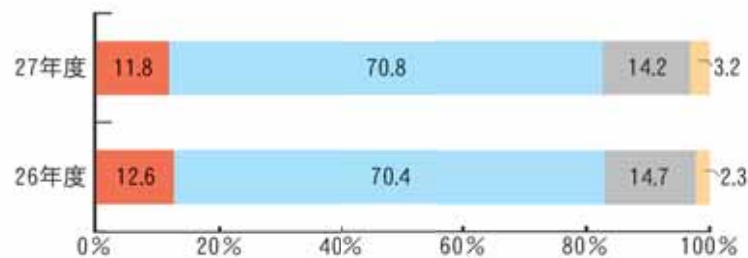
公共施設

8割が対応を容認

公共施設の更新（老朽化）問題への対応について「ある程度まで容認できる」が約7割と最も高くなっています。容認度（「容認できる」「ある程度容認できる」の合計）は8割以上を占めています。



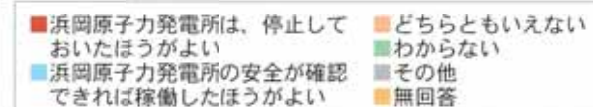
問 公共施設の更新問題への対応を進めると、公共施設の統合・廃止、使用料の値上がりなどが起こりうるが、容認できるか？



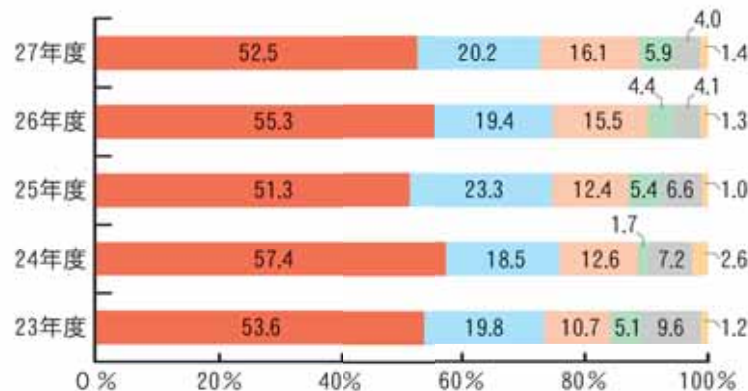
原発

浜岡原発停止に過半数

浜岡原子力発電所の今後については「停止しておいたほうがよい」が52.5%で過半数を占めています。平成23年の震災以降ほとんど変わりません。次いで「安全が確認できれば稼働したほうがよい」が20.2%となっています。「その他」の中には廃炉などの意見が、1.4%含まれています。



問 浜岡原発の今後についてどう思うか？



市の行政サービスについて

市の取り組みについて満足しているか、また、その取り組みが重要であると考えているかとの57項目の設問に対して、重要度が高かった取り組みは、「震災・火災・水害・浸水対策への取り組み」、「こども医療費制度」、「救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制」と続いています。過去3年間をみると「震災・火災・水害・浸水対策への取り組み」、「救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制」は毎年上位を占めています。今回は「こども医療費制度」が高い結果となりました。重要度の高さは、市民の関心の高さを示しています。

市民意識調査

7割が幸せを実感

住みたい、住み続けたいと思えるまちの実現に向けて

市では、市のさまざまな取り組みに対する市民の意識を把握し、事業の達成度を確認するとともに、今後の市政へ反映させることを目的として「市民意識調査」を実施しました。その結果がまとまりましたので、一部を掲載します。

この調査は平成19年度から始まり、今回で8回目の調査となります。

詳細は、市ホームページに掲載または榛原・相良庁舎の情報公開コーナーに配架しています。

http://www.city.makinohara.shizuoka.jp/bg/shisei/ent/935.html
問い合わせ 企画課 大倉 ☎0040

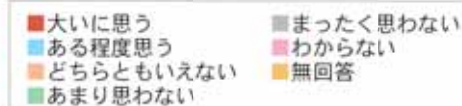
～ 調査の概要 ～

調査対象：市内在住（市内に住居票のある人）の16歳以上の男女
調査方法：無作為抽出による郵送配布・回収
調査期間：平成27年5月1日～5月15日
発送数：1,395通
有効回収数：833通
有効回収率：59.7%
*端数処理の都合上、また、複数回答のため、合計が100%にならない場合があります。

くらし

7割が幸せを感じる

「幸せだと思う」「大いに思う」「ある程度思う」の合計が約7割となっています。幸せだと思う理由として、「健康であるから」がもっとも多く、「家族や友人との関係が良好だから」「住まいがあるから」と続いています。



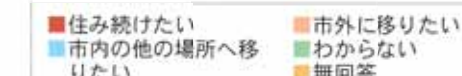
問 今現在、幸せだと思うか？



居住

住み続けたい人が6割

今の住まいの場所に「住み続けたい」が約6割と最も高くなっています。他の場所に移りたい理由の「地震や津波などの被災のおそれがあるから」は、平成24年度から年々減少しています。



問 今の居住地に今後も住み続けたいか？

